

下町情緒あった二十人町

遠藤由美子 74歳

(塩釜市・主婦)

右に仙台管区気象台、釈迦堂、公園劇場、左に榴岡公園を見て坂を下り、JR仙台駅に向かう一方通行の通りが、かつての二十人町(仙台市宮城野区)である。(仙台市宮城野区)である。住宅がひしめき、バスが通るとドスンと地響きがする、下町情緒たつぷりの町だった。

私はここで生まれ育った。目をつぶれば、懐かしい光景がよみがえる。

自転車屋さんの片隅で、おばちゃん焼いていたどろんどろん焼。お弟子さんたちの仕事をみるのが好きで、小学校から帰ると入り浸っていたこけし工房。ドリアンというアイスを売っていたお店もあった。そして、父の晩酌の量り売りのお酒

を思いはやく、たはははは。切りがない。

区画整理事業で徐々に住人が去り、私の実家も移転。夜になると真つ暗になった。やがて通るたびに変身していき、今や仙台駅東口周辺とともに目を見張る発展ぶりである。

二十人町という町名は残ったが、昔の町並みの面影はない。友人知人も少なくなつた。古里は遠くなり、けり、という心境である。

世界遺産へ機運高めたい

京野 英一 69歳

(宮城県松島町・仙台郷土研究会理事)

私の古里は日本を代表する景勝地・松島である。いにしえから絵画に描かれ、詩に詠まれ、文化財が残された。私が40代半ばの頃、娘の中学校の授業参観で、「おくの細道」に自分が無知だと知った。

松尾芭蕉は松島の月を見

るために訪ね、月明かりが海に映ると句作を諦めるほどの感動を覚え、石巻への道で難渋したのだった。以来二十数年にわたってこれらのことを研究し、還暦の時に小冊子にまとめたボランティアガイドの会を設立。現在も毎月、研修会を続けている。

宮城県はかつて松島の世界遺産登録を目指したが、

宮城県の文化財を所蔵する松島博物館も改修工事が始まった。来年は芭蕉の「おくの細道」の旅から330年。古里の役に立ちたい気持ちを込めて詠んだ。

豊かな自然と文化加美町

仲嶋 節子 71歳

(仙台市宮城野区・主婦)

宮城県加美町が私の自慢の古里です。鳴瀬川の清流に育まれたアユやおいしい米、数々の銘酒を生み出しています。近年はカヌーの練習場としても有名になりました。

西部には、緩やかな稜線の薬菜山があり、泰然とし

た姿で人々を見守っています。山麓は美しく整えられ、一大レジャー施設ができます。多くの人を楽しませています。

毎年4月20日には初午まつりがあり、歴史ある勇壮な虎舞が披露されます。中新田パッパホールでは多くの音楽イベントを開催。昨年春には国立音楽院宮城

キャンパス開校といううれしいニュースがありました。文化の薫り高い町になりつつあります。

加えて私は、小さくてもいいので、美術館があつたらなあと思います。古民家を改装した美術館、なんていかがでしょう。もう一つ、町中に花を植え「音楽と花の町」になったら素敵でしょう。自慢が増えるとい

慰安婦財団解散表明

またも解決済みの問題を煮返すつもりようだ。慰安婦問題を日韓両政府が2015年に合意し、日本が10億円を拠出して設立した「和解・

の拠出と財団の設立、韓国側は市民団体などが建立した慰安婦像を撤去するなどの。最も重要なのは、この合意によって慰安婦問題の「最終的かつ不可逆的な解決」を確認したことだ。

80年代に一部の新軍慰安婦の強制連行の記事にさかのぼる研究者や政府の詳細についても、奴隷狩り強制連行が行われた実は全く確認できな



声の交差

新聞の一面に、でかかど活字が躍っていた。何と日産自動車のカルロス・ゴーン会長逮捕のニュースである。

日産の業績を短期間でV字回復させたカルロス・ゴーンとして、その豪腕ぶりは世界を驚かせ、日産を世界的なブランドに育てた功績は誰しもが認めるところでもある。

しかし「山高ければ谷深し」「ありの一穴」という言葉もある。不正の内部告発が発端であれば、自らが墓穴を掘ってしまった感があつた。魚は頭から腐る」の例えもある。「ゴーン教祖」一人にあまりにも権限が集中し、社内にも臨しすぎたのではないか。

社名は確かに「日産自動車」ではあつても、ハンドルのアクセルが日本型では

自動車資格検査問題データ改ざり相次いで発の信用と安が崩れつついた。そう

敗

青木

(仙台市太

仙台市博

50年」を

きました。

一緒に下

里越をは

ゆかりの

かり。私

「奥羽の

をほぼ毎

の週には

なつた福